

「問題1」

解答例

抽象的でない議論を多く積み重ね、感性に訴える指示を出し続けるというやり方。(三十字)

解説

文章2の前半では、隈さんが心がけているスタッフとのやり取りの仕方が述べられています。サッカーにたとえている「全体のパス回し」というのはみんなで「議論を積み重ねること」を意味しますが、そのときに重要なこととして「禅問答にしない」「抽象的な議論はほとんどしない」ことが挙げられます。また、隈さんからの指示としては「ナマで、少しバカっぽい指示」、つまり感性に訴える指示を「出し続ける」ことが述べられていますので、これらをまとめて解答らん<sup>うた</sup>に合うように解答を作ります。

解答のポイント

- ① 「禅問答でない」「抽象的でない(具体的な)」議論を「積み重ねる」ことを述べている。
- ② 「ナマで、少しバカっぽい指示」「感性に訴える指示」を「出し続ける」ことを述べている。

「問題2」

解答例

建築の現場では、身体感覚を大切にして、相手という人間を知って、相手に合ったやり方をする必要があるから。(三十五字)

解説

問われている部分の「場所」とは、建築が生み出される「現場」のことです。つまり、「現場」と向き合う人を評価するのはなぜか、ということが問われています。文章1の二カ所で、「現場」と向き合うことの大切さが述べられています。一つは、文章前半のクライアントとのコミュニケーションの場面です。そこでは「相手という人間を知って、相手に合ったやり方をする」ということが、僕の仕事でも「一番大事」であると述べています。もう一つは文章の後半で、「自分が経験した苦痛も含めて、身体感覚が絶対的に大事」とあります。これら二つの「大事」なことが建築現場で必要であることをまとめて、解答らん<sup>うた</sup>に合うように解答を作ります。

解答のポイント

- ① 「身体感覚を大切にする／生かす」ことを述べている。
- ② 「相手に合ったやり方をする」「相手によってコミュニケーションの仕方を変える」といった内容を述べている。

「問題3」

解答例

友達が誤解しているのは「自分らしさがなくなってしまう」という点だと思います。

限さんは、自分の経験に基づいた身体感覚を生かし、地に足をつけて現場と向き合うことが大切だと述べています。経験や感覚は人によって異なるので、身体感覚を生かせば自分らしさがなくなることはありません。また、建築はクライアントとの共同作業であると述べています。そこで人間観察の大切さを述べていますが、それはただ言いなりになるだけではなく、相手に合わせて自分を出していくためだと考えられます。だから、「自分らしさがなくなる」というのは誤りだと思います。

花子さんがこれからの生活で心がけようと思っていることの一つ目は、様々なことに積極的に取り組み、自分だけの経験を積むことで、身体感覚や感受性を豊かにすることだと思います。二つ目は、多様な人々との交流の中で自分らしさを発揮するよう努力することで、どのような状況でも自分を出していくるようにすることだと思います。(四百三十四字)